

17. 絶滅危惧種

2025/11/5 白子隆志

最近テレビをつければ毎日クマによる人身被害のニュースが出ています。高山日赤に在籍した時は毎年2-3件のクマ外傷を扱っていました。やはりクマは相手の急所を狙うため頭部顔面をひっかく、あるいはかみつくなどするために、眼球を失ったり、頭蓋骨骨折したりしていました。当時は、高山だから仕方ないかなと思っていましたが、昨今は沖縄・九州を除いてほぼ日本全国で被害(出沒目撃)があるようです。高山・奥飛騨にはえさやりや赤ちゃんクマたちとの記念撮影もできる「クマ牧場」があります。このところの全国でのクマの被害で風評被害を受けていないかと心配していましたが、ニュースによるとインバウンドもあってにぎわっているとのこと。

クマの出沒が増えている理由は山での食料が不作であるなどいくつかあるようですが、人間の生活が彼らの生活区域と接するようになり、彼らにとっても人間の生活圏が恐怖ではなくなっていると思われます。昔は猟師さんたちが狩猟することによって均衡が保たれていたのだと思われます。いずれにせよ、地球温暖化、山火事の増加、自然破壊を伴う都市開発、商業としての乱獲など「人間」がまいた種であることは疑いないように思います。

ところで、「絶滅危惧種」という言葉を皆さんも聞いたことがあると思います。恐竜も過去に絶滅した種であるので自然に絶滅することはまれではなかったと思いますが、1975年までは1年に1種くらいのペースで絶滅していたものが、近年では1年に4万種に上るペースになったそうです。例えば日本では、鳥類の中では・コウノトリ・トキ・ヤンバルクイナ・シマアオジ・シマフクロウ・イヌワシ・マナヅルなどが危惧種だそうですが、ウズラも入っています。我々はウズラの卵を平気で食べていますが良かったのか心配になりませんか？魚でも、ドジョウや日本ウナギも危惧種に入っていてやはり心配になりますよね。

日本の動物園から次々に中国に戻ってしまったパンダも絶滅危惧種の一つですが、中国の動物保護政策と、世界中でのパンダ人気から以前より生息頭数は良くなっているようです。中国は、パンダ人気を逆手にとって、良い意味でも悪い意味でもパンダを使者としての「パンダ外交」を繰り広げています。同じクマの一種でも、ツキノワグマ・ヒグマは嫌われて、パンダのように愛されなくてかわいそうですよね。とうとう被害が頻発している秋田県では自衛隊と協定を結んで出動してクマ捕獲？をするそうで、本当に深刻な事態になったようです。

パレスチナでは停戦合意後も戦闘が行われ死者が出ていると伝えられています。すでに7万人近い人々が殺されていて、かつて彼らがヨーロッパで味わった「ジェノサイド・民族浄化」を今度はイスラエルがパレスチナで行っているのです。狭い地球で人間も動物も仲良く暮らしていかなければならないのに、結局人間の利己主義が自然界のバランスを壊しているのです。学習能力のない人間たちは歴史を顧みず同じことを繰り返し人類が絶滅し、いずれ「猿の惑星」になった時に初めて後悔するのでしょうか。

(注)猿の惑星：人間が高度な知能を持つ猿に支配された未知の惑星という前代未聞の世界観と衝撃的なラスト・シーン(岬の向こうに自由の女神像があり、実は将来の地球だった)は世界中で大きな反響を呼び、他に類を見ない独自の世界観を確立した映画(1968年)。



白浜・アドベンチャーワールド パンダ(2022年)



ニューヨーク・セントラルパーク動物園 レッサーパンダ(2017年)